

田富小だより

令和4年度
第8号
11月28日
田富小学校



中身の濃い児童会選挙でした

11月14日より令和5年度の児童会役員を決める児童会役員選挙の選挙運動が始まりました。5日間の業間休みに、玄関や校舎、校庭で行う“選挙遊説”と、6日間をかけて、教室を回って公約をうたえる“教室訪問”の2つに取り組んできました。遊説も、教室訪問も立候補者だけで行うわけではありません。責任者や運動員も一緒に参加します。選挙管理委員をのぞいたほとんどの児童が参加して行っています。どの学級も立候補者を当選させようと、一生懸命準備をして、立候補者の人となりや公約をわかりやすく、しっかりと伝えていました。こうした活動を通して、子ども達は協力することの大切さや、助け合うことの尊さを学び、級友との絆を一層深めていくことになりました。



緊張しながら出番を待つ候補者たち

さて、その運動の最終日が11月25日（金）でした。この日は2校時に、オンラインによる立会演説会が開かれました。昨年に引き続き、拡大しつつある感染症の感染防止措置としてこのような形になりました。目の前に聴衆がないという難しい状況のなかで、ついに候補者・責任者の力のこもった演説がはじまりました。ほとんどの児童は演説原稿を持っていません。カメラに向かって真っすぐな眼差しを映しながら、画面の向こうにいる有権者に懸命に呼びかけます。緊張して言葉がちょっとつまったり、話す内容を忘れてしまったりする場面も多少ありましたが、しっかりと自分の言葉で伝えることができました。私は傍らでこの様子を見ていたのですが、頬が紅潮して頭の中が真っ白になりそうな自分を懸命に押さえながら、必死に呼びかける姿が印象的でした。

うったえた内容の中でどの児童にも共通していたのは、「楽しい学校」、「明るく元気な学校」、「笑顔溢れる学校」という目指すべき姿でした。感染症の影響はもう3年になろうとしています。子ども達の心に少なからず影響を与えていることは確かだと思います。「もっと話したい」「もっと触れ合いたい」と。最近、ようやく以前の生活を取り戻しつつあるように思えます。そんなタイミングですから、楽しく・明るく・笑顔になれるようなものを切望しているようです。具体的には、「友達の仲良くなれる運動系のイベントをしたい」、「月別目標の実践」「STKZ（S：しずかに T：ていねいに K：協力して Z：時間を守って）運動の推進（清掃活動）」、「あいさつ運動の推進」など明るい、笑顔溢れる学校を目指す候補者たちの考えがひしひしと伝わってきました。演説会が終わり、3年生以上が投票し、昼休みに開票作業、5校時に開票結果が出されました。



演説会を終えて全員で集合写真！

選挙ですから、当然、当落があるものです。しかし、間近に候補者たちの真剣な姿勢をみた私にとっては、

「どの児童も立派だった」という思いしかありませんでした。それほど、今年度の選挙は内容のある

とても素晴らしいものだったと思えるのです。

令和5年度は、新会長・副会長を中心に「明るく、楽しく、笑顔溢れる学校」を創り上げていってほしいと思います。

全国学力・学習状況調査より考える

一昨年度まで、新型コロナウイルス感染症の影響で実施されませんでした。今年度は昨年度に引き続き、実施されました。教科は国語・算数・理科の3教科です。

全体の平均正答率は、国語、算数、理科いずれも全国や県の平均を下回る結果でした。国語については、「思考力・判断力・表現力」の項で差が最も大きくなっています。読書をはじめ、文章に接する機会を設け、目的に応じて、文章の内容を的確にとらえられるようにしていきたいと思います。本校児童は、年間100冊を超える読書量があるので、こちらは引き続き継続して読書活動を推進していこうと考えています。漢字の読み書きなどの基本的な知識などは、家庭学習における繰り返しの練習が不可欠となります。本校の自学ノート「やってみるじゃん」への取組をさらに推し進めたいと考えます。

算数は、国語と比べ、全国や県との差は小さくなっています。しかし、「C変化と関係」に関する部分では、他の項目に比べ正答率が低い結果でした。どの問題においても、授業で扱った基礎的・基本的な事項については理解しているが、出題が内容量の多い課題になっており、十分に出題の真意をとらえきれないこともあると考えられます。今後も日々の授業の実践の中で児童が主体的に総合的に課題に取り組めるようにしていきたいと考えています。

理科は、B区分「地球」を柱とする領域に課題がありました。算数と同様、内容量の多い課題に対して、何を問われているのか、どう解決していけばいいのか、そのためにどんな情報をどのように活用していけばいいのかを児童が自らの考えで主体的に取り組んでいけるよう、授業の中でその力を育てていこうと考えています。

児童の学習や生活状況を調べる「児童質問紙」においては、次のような特徴がありました。

- ・「先生はあなたのよいところを認めているか」「将来の夢や目標をもっているか」、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しているか」という問いに対する回答や、「人が困っているときに助けたい」「いじめはゆるさない」「困りごとや不安はいつでも相談できる」「人の役に立つ人間になりたい」など、人間として重要な部分についての回答は、県や全国と比べ、15ポイント~20ポイント以上高い割合で回答していました。

これらの回答から、

学校という集団で学ぶべき社会性が育まれてきていることはとても重要であり、今後ともこういった『前向きで、周囲の人と共に、健全に生活していく』児童を育むために、職員一同努力していきたいと思っています。

反面、次のような課題もありました。

- ・「携帯やスマホを使っているSNSや動画視聴の時間」が県や全国に比べ高くなっている。
- ・「1日あたりの勉強時間（塾なども含む）」について、2時間以上と回答した割合が全国に比べ少なくなっている。
- ・「新聞を読んでいる」については、ほとんど・まったく読まないという児童が多く、県や全国と比べ10~15ポイント低くなっている。
- ・「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか」という項目では、「よくある」と回答した児童が県や全国に比べ少なくなっている。

コロナの影響もあるかもしれませんが、スマホやゲームに費やす時間が増え、外にでて遊ぶなどの機会が減ってきているようです。本校PTAでも取り組んでいる、これらの情報端末の使い方については、継続して、粘り強く取り組んでいくことが大切であると考えます。

子ども達の健全な育成のため、今後も児童の生活については、ご家庭や地域と協力しながら取り組んでいきたいと考えています。